

- 問1 国司が中央政府から認められた、現地の税を集める権利を何という？
- 問2 摂関家を外戚に持たず、荘園整理令を出して藤原氏の勢力を抑えた天皇は誰？
- 問3 平安時代に宮廷の出来事や自然の美しさを短文でつづった、日本最古の随筆を著した女性性は誰？
- 問4 『源氏物語』を書き、平安時代の国風文化を代表する女性作家は誰？
- 問5 平安時代末期、朝廷による平定が進んだ東北地方で、独自の勢力を築き上げた一族を何という？
- 問6 平安時代中期、天皇の後を出すことで政治の実権を握った代表的な一族は誰？
- 問7 1159年に平清盛と争い、平治の乱を起こした源氏の武士は誰？
- 問8 日宋貿易で力をつけた平氏一族が厚く信仰した、安芸国にある神社を何という？
- 問9 「この世をば わが世とぞ思う 望月の 欠けたることも 無しと思えば」という歌を詠み、摂関政治の全盛期を築いた人物は誰？
- 問10 平安時代初期、朝廷の支配が及びにくかった日本の北東部地域を何という？
- 問11 平清盛が日宋貿易を推進するために修築した、兵庫県の港を何という？
- 問12 平安時代、紀貫之に最初の勅撰和歌集の編纂を命じた天皇は誰？
- 問13 空海が唐で学んだ密教を日本に広めるために金剛峯寺を建立した際、唐へ渡った制度を何という？
- 問14 平安時代後期に貴族の間で流行した、死後に阿弥陀如来の助けを借りて極楽浄土へ生まれ変わることを願う考え方を何という？
- 問15 平安時代中期に『枕草子』を著し、宮廷生活の機微を描いた人物は誰？
- 問16 平安時代初期に空海らが唐から伝え、当時の貴族や僧侶の間で信仰された、高度な儀式や修行を重んじる新しい仏教の教えを何という？
- 問17 平安時代、地方の政治が乱れる大きな原因の一つとなった制度の廃止を何という？
- 問18 1086年に天皇の位を譲った後、上皇として御所外から政治の実権を握った人物は誰？
- 問19 平安京が碁盤の目状に整備される際に、手本とされた中国の都はどこ？
- 問20 平安時代中期、貴族の邸宅として発展した日本独自の建築様式を何という？
- 問21 国風文化の発展を支えた、漢字を簡略化して作られた文字を何という？
- 問22 空海が開いた高野山の金剛峯寺が総本山である、平安時代に広まった仏教の宗派を何という？
- 問23 平安時代初期まで、日本が中国（唐）へ文化や制度を学ぶために派遣した使節を何という？

答え合わせ・解説

問1	答え 徴税権	10世紀頃、朝廷は国司に一定額の税収を保証させる代わりに、徴税権や地方の行政権を大幅に委譲しました。これにより国司は現地の経済を支配し、大きな利益を得られるようになりました。
問2	答え 後三条天皇	後三条天皇は、母が藤原氏出身ではない天皇として即位しました。記録荘園券契所を設置して延久の荘園整理令を出し、不正な荘園を廃止して朝廷の財源を確保しました。これにより、藤原氏の経済的基盤が揺らぎ始めました。
問3	答え 清少納言	清少納言は、中宮定子に仕える中で見聞きしたことや、四季の美しさなどを鋭い観察眼で書き記しました。これが日本最古の随筆である『枕草子』です。理知的な文体と、当時の宮廷社会の様子を描いた内容が特徴です。
問4	答え 紫式部	紫式部は、藤原道長の娘に仕えながら、『源氏物語』を執筆しました。この物語は、主人公である光源氏の栄華と没落を通して、人間の心理や当時の貴族社会を克明に描き出しました。
問5	答え 奥州藤原氏	奥州藤原氏は、藤原清衡から始まる4代にわたる一族で、平泉を中心に強大な経済力と軍事力を持ちました。金などの産出や対外貿易によって莫大な富を蓄え、中尊寺金色堂に代表される華やかな文化を築きました。
問6	答え 藤原氏	藤原氏は、自分の娘を天皇に嫁がせて生まれた子を次代の天皇にすることで、天皇の親戚（外戚）として権力を振るいました。藤原道長の時代に全盛期を迎え、朝廷の主要な官職を独占しました。
問7	答え 源義朝	1159年、義朝は藤原信頼と結託して挙兵しましたが、最終的に平清盛に敗北しました。この敗北により源氏の勢力は一時的に衰退し、息子の源頼朝らは伊豆などへ流されました。
問8	答え 厳島神社	平氏一族は、安芸国にある厳島神社を厚く信仰し、社殿を豪華に造り替えました。海に浮かぶようなその姿は、当時の建築技術の高さと、貴族化した平氏の優雅な文化を今に伝えています。
問9	答え 藤原道長	藤原道長は、四人の娘を次々と天皇の后とすることで、揺るぎない地位を築きました。自身が摂政や関白になることもありましたが、それ以上に天皇の外戚という立場で朝廷を掌握しました。彼が詠んだ歌は、自身の権勢が満月のように欠けるところがないと誇る自信に満ちたものです。
問10	答え 東北地方	東北地方には、朝廷の支配に従わない人々が生活しており、朝廷側は彼らを「蝦夷」と呼んで服属させようとしていました。朝廷は多賀城などの拠点を作り、軍事的に征討を試みました。
問11	答え 大輪田泊	平清盛は、瀬戸内海の海上交通を支配し、安全な航行を確保しました。その要衝として、現在の兵庫県神戸市にある大輪田泊を修築しました。これにより、宋からの商船がより安全に寄港できるようになり、日宋貿易は大きく発展しました。
問12	答え 醍醐天皇	醍醐天皇は学問や芸術を尊重し、多くの文人を重用しました。905年、彼は紀貫之らに命じて、それまでの和歌を集めた日本初の勅撰和歌集『古今和歌集』を編纂させました。この事業は、日本の文学史において非常に重要な出来事です。
問13	答え 遣唐使	遣唐使は7世紀から9世紀にかけて、朝廷が中国へ送った外交使節団です。空海や最澄ら多くの僧侶や留学生が渡り、仏教の教えや政治制度、芸術などを持ち帰りました。これにより日本の社会や文化は大きな影響を受けました。
問14	答え 浄土信仰	浄土信仰は、阿弥陀仏を信じ、その名（南無阿弥陀仏）を唱えれば、死後に極楽浄土へ行くことができるという教えです。当時の貴族たちは、自分の館や寺院の建物に阿弥陀仏を安置し、豪華な飾りつけをすることで、現世に極楽浄土を再現しようとしていました。平等院鳳凰堂はその代表例です。
問15	答え 清少納言	清少納言は、中宮定子に仕えた女房です。彼女の代表作『枕草子』は、「春はあけぼの」という有名な書き出しで始まる随筆です。宮廷生活の中での出来事や、自然の美しさに対する鋭い観察眼と、彼女自身の機知に富んだ考え方がユーモアを交えてつづられています。当時の貴族社会の価値観や美的センスを知るための極めて重要な資料です。
問16	答え 密教	密教とは、仏の教えを秘密の教えとして、師から弟子へと直接受け継ぐ仏教の一派です。空海は真言宗として、最澄は天台宗の中に密教を取り入れました。この教えは、曼荼羅（仏の世界を絵にしたもの）や、手で印を結び、真言（呪文）を唱えるといった修行を重視します。
問17	答え 遣唐使廃止	894年の遣唐使廃止によって日本は中国との公的な外交関係を絶ちました。これにより、中央政府の関心は外交から国内統治へと向かいましたが、地方へ派遣された国司たちが現地に赴かず、京に留まって私腹を肥やすといった政治の腐敗が目立つようになりました。
問18	答え 白河上皇	白河上皇は1086年に天皇の位を子に譲り、自らは上皇となって政治を執り行いました。これを「院政」といいます。これにより、摂関家ではなく天皇や上皇が権力の中心となりました。
問19	答え 長安	平安京は、唐の首都である長安の都市計画をモデルにして建設されました。道路が東西・南北に整然と交差する「条坊制」を採用し、北端中央に天皇の住まいである内裏を置く構造となっています。当時の高度な都市開発技術が結集された、日本を代表する計画都市です。
問20	答え 国風文化	国風文化は、仮名文字の普及による文学の発展や、独自の美的感覚を反映した建築、絵画（大和絵）などが特徴です。日本人の心情や感性を豊かに表現したこの文化は、当時の貴族社会のあり方を象徴するものとなりました。
問21	答え かな文字	漢字の草書体を簡略化した「ひらがな」や、漢字の一部をとった「カタカナ」が普及しました。これにより、複雑な漢字を使わずに和歌や日記、物語などを自由に書けるようになり、文学表現の幅が大きく広がりました。
問22	答え 真言宗	真言宗は、空海が唐から持ち帰った密教の教えに基づく宗派です。呪文や曼荼羅（まんだら）を用いて悟りを開くことを目指す点が大きな特徴です。高野山にある金剛峯寺は、現在も真言宗の総本山として広く知られており、当時の貴族たちからも厚い帰依を受けていました。
問23	答え 遣唐使	遣唐使は、天皇の命を受けて唐へ派遣された公式の外交使節団です。留学生や僧侶も同行し、帰国して新しい仏教（密教）や学問、技術を日本に持ち帰りました。しかし、894年に菅原道真の建議により停止されるまで、多くの人々が命をかけて海を渡りました。これにより、日本は当時の東アジアの先端文化を吸収し、発展の礎を築くことができました。